

委員名	【報告事項】令和3年度 芦屋川カレッジ及び大学院、公民館講座等の実施状況について	【協議事項】令和4年度 芦屋川カレッジ及び大学院、公民館講座等の実施予定について
今西 委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、このような数の受講生が各種プログラムに参加されている実績に対して評価したい。安全に対する配慮や合理的対策など、関係者の大変なご苦労があったと思っている。</li> <li>・芦屋川カレッジの聴講生やカレッジ大学院は通常年の実数とほとんど変わらないのではないかと。</li> <li>・公民館講座については、趣旨に見合った多彩で興味深い学習機会が提供されており、教養を高める機会となっている。中世期の芦屋研究などの郷土芦屋の新しい発見があり、アーカイブすべき資料の提供があったことは貴重である。</li> <li>・「にほんごがっきゅう」「青い鳥学級」や「くすのき学級」など、だれ一人取り残される人のない社会をめざした取組も素晴らしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度計画においても、市民にとって関心が高いことが予想されているプログラムが提供されている。生活課題や必要課題をふまえた内容のもと、文化・芸術などの人間性育成に関わるものが、バランス良く企画されており、市民のQOLを高めるに違いないだろう。</li> <li>・前年度と継続された内容のものもあり、学習の連続性と系統性といった視点からも興味深い計画であった。</li> <li>・芦屋市内の演奏家を中心とした音楽会などがあり、地域の人材と結ぶつく取組に市民の文化レベルの厚みを感じた。</li> </ul>
鹿野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の報告に引き続き、家庭教育セミナーのオンライン配信の盛況を嬉しく感じた。コロナ後の継続も検討したい。また、他の講座の配信は考えていますか。大澤壽人の楽譜しか残っていない曲の演奏はそれだけで大きな試みと評価する。欲を言えば、だからこそ聴いてみたい。Youtubeにアップすることは考えていますか。</li> <li>→現状の公民館の人員体制、及びカメラ等の備品やWi-Fi環境では、家庭教育セミナーのような、他課の職員と協力しながら、受講料無料で、著作権等の観点からもzoomによる生配信を行なう事に制約のない講座しか、オンライン配信が出来ません。令和3年度は、県内各市の事例についても研究したため、令和4年度の公民館運営審議会では、当該研究結果も紹介しながら、令和5年度以降のオンライン配信についても議論したいと考えています。</li> <li>・質の高い講座にもかかわらず、受講者を絞っている現状について主催者側の心境を推察する。コロナ禍が早く過去のものになることを願う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あしやのきゅうしょく」製作の講演は若い年齢層にも興味もたれると思う。平日昼の時間帯は参加難しい方がいるのではないかと。</li> <li>→春の公民館講座開講記念講演は、例年401室で土曜開催とすることを基本にしています。しかし、他の委員もご指摘の通り、タイムリーな人選で参加希望者増が見込まれたことから、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より多くの市民に参加いただけるルナ・ホールでの開催とした結果、土日に空きが無かったためです。</li> <li>・バランスのとれた芦屋らしい講座だと評価しています。</li> </ul>
木ノ下 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芦屋川カレッジの内容の濃い講座の企画は評価するべきですが、withコロナとして新しいカレッジとしての在り方に根本的な部分で議論する必要があると思います。</li> <li>・阪神青い鳥学級・阪神くすの木学級の運営についてももう少し詳しく知りたいと思いました。</li> <li>→気象警報、まん延防止等重点措置の発令により、令和3年度は公民館運営審議会が2度とも書面開催となっていました。結果として、例年に比べ事業内容についての議論や説明が十分に行えていない部分もあるものと認識しておりますので、令和4年度は、開催時期や開催方法を工夫し、公民館運営審議会を適切に開催出来るよう努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回も意見させて頂いた企画段階から市民が参画するような機会がないか？という回答が、委員から出た意見について、事業計画に反映すると頂きましたが、企画立案する側に多様性が必要ではないかと感じますが、そのあたりに工夫はされていますか？</li> <li>→企画立案を委託する民間事業者を選定する過程では、公民館運営審議会に出た意見を反映した企画の提案が有るかについても確認しています。</li> </ul>
西本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芦屋川カレッジ及び大学院については、報告事項の特記事項にも示されているように、感染症伝播拡大の社会状況のもと、市民の感染危惧と不安を理由とするキャンセル等により、第38期受講生については各コースとも定員の約半数であったことは、臨時休館の時期に募集時期が重なってしまうことなど、致し方のない帰結である。むしろ、そこまでよく参加して下さったとの印象を有している。聴講生や大学院14期については、ほぼ定員を充足するに至っていて、コロナ禍とはいえ、潜在的には受講への熱意が市民に有していることを示していたものと考えられる。</li> <li>・公民館講座等については、講座のなかには中止に至ったものもある中で、各講座の受講生数は、定員の約半数から9割超になるものもあって、本年の社会状況の中で検討していると考えられる。講演会・公開セミナーや音楽会についても同様である。</li> <li>・夏休み子ども教室については、いずれも定員を超える受講者があって、これまで予約しても当日不参加などというものも減って、実施者による受講生参加促進への細やかな配慮が効果を果たしていることが推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレッジ及び大学院ともに、前者は定員を充たさなかったとはいえ、防疫(衛生対策)を講じての実施を検討されているところで、各コースに充実した学びの内容を予定されているところに敬意を表したい。公民館講座についても、多様な分野の内容を潤沢に用意されていて、市民にとって楽しく学べる場となる、とみなされる。</li> </ul>
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまだ落ち着きを見せない状況下で、非常にバラエティに富んだ講座の数々を準備されたことが、素晴らしいと思いました。しかし、まだまだ不安な日々を送られている方も多く、キャンセルが増える事態は今後も予想されますが、学びに対する熱意が薄れることは無く、より一層、講座への興味が湧く内容であると思います。</li> <li>・公民館講座の阪神間モダニズムは、今、とても注目されているので、今後は、もう少し出席者が増えると思います。</li> <li>・家庭教育セミナーのオンライン開催は、子育て世代に大好評でしたので、引き続きお願いしたい。</li> <li>→上記、鹿野委員への回答をご参照ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「芦屋の給食」は、書籍・映画共に大きな話題となっており、直接監督のお話が聴ける講座は希望者多数と思われます。</li> <li>・夏休み子ども教室は、体験しながら学ぶという、興味を引きつつ知識の吸収力を高めてくれる理想的な形で、特に和 문화体験と防災への参加も期待できる。毎年子どもたちの為に、数々の教室を考え、用意して下さっていることに、心より感謝しております。</li> <li>・一点、渡り廊下と図書室の間のスペースが、展示の無い時は暗かったことが、とても残念でした。</li> <li>→令和3年度は、展示場についても新型コロナウイルスワクチン接種会場の待合として利用するなど、積極的な招致が出来ませんでした。例年301・302室で開催する市民絵画展を、小作品展として展示場で行うなどの工夫も行いましたが、令和4年度は、HP等での積極的な周知も試みます。</li> </ul>
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芦屋川カレッジは大幅な定員われであるが、コロナ感染の影響が大きいと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白羽監督などタイムリーな人選をされている。コロナ関連やロシア情勢など、市民の関心が高い講座も検討されてはどうか。</li> <li>→開催中の令和3年度冬の公民館講座でも、国際政治講座「国連と日本、そして世界-日本と世界の安全保障と国連」と題して、朝日新聞や日本経済新聞にも同様のテーマで寄稿されている大阪大学大学院の星野俊也教授を講師に招き、今まさに市民の関心が高い講座を実施しています。</li> </ul>